

2017 年度 学術論文



気管支肺胞洗浄液細胞診が有用であった アレルギー性気管支肺アスペルギルス症(allergic bronchopulmonary aspergillosis : ABPA)の 1 例

(Cytology of bronchoalveolar lavage fluid can aid in the diagnosis
of allergic bronchopulmonary aspergillosis: a case study)

掲載誌：日本臨床細胞学会雑誌, 2017

臨床検査学科
小林 彩香 先生

アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA)は、アスペルギルスというカビが原因でアレルギー症状が引き起こされる病気です。比較的珍しい病気であるため、それと気付かれず治療されていることがあります。診断が遅れると、徐々に気管支や肺の機能が失われていくので、早期に診断し適切な治療を開始することが重要です。今回の論文は、身体を傷つけることなく検査材料が得られる細胞診を用いて ABPA が診断できたことを報告したもので、診断に有用な細胞像について詳しく記述しており、専門雑誌に掲載されました。

